

ほーれん草で年間15～17回転の年間連続栽培が可能となりました！

M式農場で取組んでいるテーマの一つに「ほーれん草年間連続栽培の確立」があります。一作ごとにベッドの消毒、培養液交換を実施しての作型を取っているT社システムなどがありますが、弊社では、これらの作業をしなくて年間連続栽培、さらに培地に粒状ロックなど使用しないで、従来水耕で多用されているウレタン培地での作型確立を目指して、ここ2年取組んでいます。

しきプラント(NFT)、養液冷却、できーるくんによる自動養液更新などのシステムで栽培していますが、安定化が実現できてきたと考えています。夏場の地上部管理、培養液などの地下部管理などの最適値を見出すために苦労しました

が、これらも今日的には解決することができました。ポイントは、根酸など老廃物蓄積を排除できる手法と、養液冷却による培養液温度管理手法の確立にあると思っています。これによって健全な根の状態を維持することが可能となり、年間を通して順調な栽培が継続できます。栽培期間(定植から収穫)は概略以下の表のようになっており年間15～17回転が可能となりました。

冬季	中間期	夏季
28日	23～25日	20日

ウレタン培地による育苗は、培地資材費用の低減、出荷調整などの処理作業

手間軽減で非常に効果があり、お客さんにも喜んでもらえるのではないかと考えています。夏季の育苗は、17以下の井水が得られる環境であれば、それを利用した育苗専用ベッドでも代用はできそうであるが冷却機能ももった育苗ユニットが、どうしても不可欠である。

農薬取締法改正に伴う農薬規制下では病害対策に細心の注意が必要となること、また生食用途に供される素材であることから、「にがみ成分」軽減、あるいは残留硝酸塩濃度軽減などへの取り組みも大事で、これらに対しても一定の成果を得ているが、さらに研究を続けていく必要があると考えています。

(農場長 竹内孝幸)

